

中間報告会～P2 院生より実践の経過報告～



熱心な発表が続いた教育実践研究中間発表会

8月28日、教育実践研究中間報告会が、対面形式で開催されました。教職大学院2年生より、協力校での取組や関連論文や書籍の学び等が報告されました。発表に対する質問や意見をもらい、共有することにより、これまでの取組を振り返り、刺激を受けるよい機会となったようです。1年生にも、今後どのように取り組んでいけばよいかが明らかになりました。2月の発表会に向けて、さらなる取組の深化が楽しみです。

NITS 熊本大学コラボ研修

現職院生が企画、運営するセミナー『これからの学校を「対話」する～子供も教師もしあわせな学校をめざして～』が、8月23日に熊本県立劇場で行われました。熊本大学の苦野一徳准教授の講演、福岡県古賀市立小野小学校の今林菜美子教諭の校内研修についての実践紹介、実際に対話するワークショップが行われました。どれも2学期からよりよい学校をみんなで創っていく大きな勇気をいただく刺激的なもので、たいへん満足度の高いセミナーでした。



保護者・教職員向けセミナー『「スマホの向こう側」～時代を創る力を育む生成AI時代の子育てと学校教育～』が、7月6日に開催されました。熊本市立出水南中学校の田中慎一朗校長と、熊本大学の前田康裕特任教授に登壇いただきました。タブレットを使い、可能性を發揮する子供達の姿を見ると、大きな期待を感じます。いろんな心配、戸惑いも、子供達と一緒に考え、一緒に乗り越え、さらなる期待に変えていくことを目指した話が展開されました。

P1院生による授業紹介

教科と教科外活動の関連的な授業開発・実践研究Ⅰ

私は、子どもたちと授業をする中で、その教科だけを教えることで精一杯の日々を過ごしてきました。汎用的な資質・能力の育成のために、意図的に教科を横断したり、関連的に授業したりすることができていなかったような気がします。講義では、汎用的な資質・能力の育成のために、道徳や総合的な学習の時間と各教科を関連させた授業の開発を学ぶことができました。また、マイスターの授業を実際に見に行き、意見を交わしたり、自身の実践を振り返ったりと、とても深い学びを経験することができました。(P1 志賀 哲朗)



P2院生による研究紹介

教師の対話による自己内多様性の構築

予測困難な時代において、子供たちには、自己の中に他者視点を取り入れながら生き抜いていく力が必要だと考えます。そのためには、子供の成長を支える教師こそが、他者視点を取り入れながら学びを更新していく経験が必要ではないでしょうか。そこで校内研究を活用し、「違和感」に着目した対話の在り方について研究しています。教員間での「違和感」を前向きに捉え、対話を通じて自己の中の違和感に気付き、生かせる教員集団を築いていきたいと考えます。これらの教師の姿が、子供たちの学びのロールモデルとなることを願って研究を進めています。 (P2 山形 麻衣子)

